# 世田谷村日記

石山修武

十月十四日

朝富士山聖徳寺へ。契約の日であったが、寺の方にミスが色々あって契約せず、夜疲れて帰る。完全に無駄な一日であった。最近だんだん一日一日が貴重なものになっているので、こんな風な徒労は本当にイヤだ。夜九時東京へ帰る。しかしながらよくよく考えてみれば、こんなドタバタ、ジタバタがあるからこそこの仕事は面白いのだ！と考えることにしよう。こんなに無駄をさせられたのだから、観音堂の設計はもう一歩も引かないぞと決めた。徹底的にやる。今夜は「室内」その他の原稿を書かねばならぬのだが、チョッと疲れが回復しないので夜十一時仮眠をとる。三、四時間で眠をさますことができるか、我ながら自信がない。

十月十五日

早朝室内原稿を書く。やればできるもんだ。何故〆ぎりぎりにならないと書く気が起きないのか。あるいは〆を過ぎないと駄目なのか自分でもわからない。藤塚光政そして日本経済新聞社世田谷村取材。夕方六本木国際文化会館ソタマ夫妻栄久庵憲司さん等とミーティングおよび会食。久し振りに変な夢をみた。東北か何処かの大体育館のようなところで歌手として私が出演している。唄おうにも歌詞は忘れて、デタラ目だし、出演中に客はドンドン帰っていってしまう。そんな場面に松崎町の森さんや役場の連中がいきなり登場して一件落着という馬鹿な夢であった。何か深層心理学的に意味があるのかね。